



Title	日台ニュース番組における画面レイアウトの差異
Author(s)	コン, イエンピン
Citation	日本語・日本文化研究. 2021, 31, p. 206-220
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85225
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日台ニュース番組における画面レイアウトの差異

コン イェンピン

1 はじめに

日本のニュース番組において、図1のような「L字型画面」の利用が近年増加しており、「緊急情報を番組視聴者に伝える効果的な情報提供手法として大切な役割を担っている」¹とされている。それに比べ、筆者の母国・台湾のニュース番組は、災害時には図2のように緊急情報を提供する。また、災害時だけでなく普段からも画面が常に分割されている。



図1 災害時における日本のニュース画面の例



図2 災害時における台湾のニュース画面の例（筆者注）

以上のように、日本のニュース番組の画面が比較的シンプルなレイアウトを採用しているのに対し、台湾のニュース番組は一つの画面に情報を多く盛り込むのが特徴的である。両者の差異はなぜ生まれるのか、筆者はそれに対して興味を持っている。しかし、テレビニュース番組の画面についての研究自体が少なく、それに関する日台の比較研究も管見の限り見当

たらないため、本稿ではこの疑問の解決に繋げるよう、日本と台湾のニュース番組を用いて画面レイアウトにおける具体的な違いを比較し、両国のテレビ放送史や先行研究からその文化的背景と歴史的変遷について分析する。それによって、テレビというメディアでしか見られない日本と台湾における情報伝達の文化差を究明することにつながることを期待できる。

2 テレビ放送のはじまりと現状

日台ニュース番組の画面レイアウトを比較するにあたり、まずは両国におけるテレビ放送の起源や現在の放送形態を理解する必要がある。放送の経営形態に関して、服部(1997)は「国営放送」「商業放送（民間放送）」「公共放送」「第三セクター（NPO、市民団体など民間の非営利団体）」による放送があると述べている。以下、日本と台湾のテレビ放送に関する項目から、本稿に関連するものを紹介する。

2-1 台湾のテレビ放送概要

台湾は1945年の終戦後中国の蒋介石政権の軍隊が進駐し、それから長期にわたって国民党の一党支配が行われた²。本多(2010)によると、テレビ本放送は、1962年10月に最初のテレビ局である「台湾テレビ（台視）」が開局し、それに続いて、1969年10月に「中国テレビ（中視）」、1971年10月に「中華テレビ（華視）」が開局した。この三つのテレビ局は「三台」と呼ばれ、すべて民間の商業放送ではあったが、いずれも当時の国民党政権、台湾省政府や軍に関連した資本を元に設立されたものであるという。しかし、このような中身が国営放送さながらの宣伝色の強いテレビに、台湾国民は反発しはじめた結果、より政治における民主化と自由化を求める動きが生まれ、1970年代以降「第四台」と呼ばれる非合法のケーブルテレビ（以下、CATV）が登場したとされている。CATVは非合法でありながらも瞬く間に台湾全土に普及し、台湾における後の衛星放送や多チャンネル化の土台にもなったと言われている。CATVの合法化後、それまで国民党政府の支配下だった放送界に対抗すべく、野党・民進党系のテレビ局である「民間全民テレビ（民視）」が1997年6月に開局し、さらに、政府や政党の影響を排除したテレビ放送の実現を各界から求められていたため、これらの圧力により1998年7月に公共放送という形態で「公共テレビ（公視）」が開局したという。これにより、地上波放送は「三台」から「五台」の時代へと移行し、言論の多様性が保障されるようになったと考えられる。

CATVが普及した台湾では現在、テレビ局とそれぞれ開設している専門チャンネルの数が大量に増えており、2018年行政院国家通訊傳播委員会（台湾における電信、通信、放送事業を監督する独立行政機構）の統計³によると、地上波「五台」の5局・22チャンネルに加え、CATVと衛星放送のテレビ局は112局・284チャンネルに上っている。普及率⁴についても、現在こそ多種多様なネット配信サービスの出現により下降傾向にあるものの、2006年に一度82%に達し、当時アメリカの69%を超えた記録を出していた⁵。台湾の家庭ではとて

も馴染みのある存在だと言える。そして各テレビ局が自分たちのオリジナリティを出すために、24時間のニュース専門・映画専門・バラエティ番組専門のチャンネルなど、同時に様々なジャンルのチャンネルを運営しているのが、台湾のテレビ業界の常態となっている。全306チャンネルの中で、地域によって視聴できるチャンネルと視聴できないチャンネルがあるが、筆者の実家（首都・台北）のテレビでも計166チャンネルが視聴可となっていることから、台湾のテレビ放送における多チャンネル化がうかがえるだろう。

2-2 日本のテレビ放送概要

日本では1950年に電波三法（放送法、電波法、電波管理委員会設置法）が制定され、公共放送としての日本放送協会（以下、NHK）と営業活動を行う商業（民間）放送の二本立てでテレビ放送の幕を開けた⁶。1953年2月にNHKが初の地上波テレビ本放送を始め、それを受け、1953年8月に日本テレビ、1955年4月にTBSテレビ、1959年2月にテレビ朝日、1959年3月にフジテレビ、そして1964年4月にテレビ東京、と他の在京キー局5局も続いて開局した。詳細は後述するが、本稿では全国放送のテレビ局の中からニュース番組を選んで比較するため、この6局に注目した。

日本では地上波放送が長年テレビ業界を牽引し続け、放送産業の市場規模も一番大きい。2019年総務省の「情報通信白書」⁷によると、市場シェアにおいて地上系民間基幹放送事業者の売上高総計だけで、民間放送事業者の売上高総計の72.4%を占めている。また、地上デジタルテレビ放送対応受信機の世帯普及率も2011年時点ですでに約95%に上っている⁸。

衛星放送（BS、CS）に関しては、総務省の統計によると、現状として2019年BSデジタル放送の視聴可能世帯数は4512万世帯で、視聴可能世帯の割合は77.1%である⁹。さらに、CATVが普及している台湾と比べ、2019年CATVサービスの加入世帯数は3091万世帯で、世帯普及率は約52.3%である¹⁰。以上のデータを踏まえると、日本においてCATVの視聴と利用は衛星放送、ひいては地上波放送にはまだ及ばないということが言えるだろう。

3 先行研究

3-1 画面レイアウトに関する先行研究

管見の限り、本稿の研究対象であるテレビニュース番組における画面レイアウトやその変遷を取り扱う日本と台湾の研究は、位(2006)の研究しかない。そのため、本稿は主にこの研究を参考にして議論を進める。以下、筆者が内容を訳して紹介する。

位(2006)によると、1941年にテレビ本放送を始めたアメリカでは、1970年代から技術の発展にともないCATV間の競争が激しくなった。1980年代に入ると、各局が似たようなニュース内容を報道している中、自局を差別化するためにはキャスターの外見や話す際のアクセント、番組セットと画面デザインが重要な要素となった。2001年の911テロ事件をきっかけに、各局はそれまで災害などの速報でしか使われなかった「ニュースティッカー」（画面

の端、大抵下か左に異なるニュースの文章を流し続ける手法、図2参照)を多用し始めた。あるテレビ局がニュース画面のデザインを変えたことで視聴率が取れていた場合、他のテレビ局もそれを真似するという暗黙の了解がアメリカのテレビ業界にはあるという。

その一方、位(2006)は台湾におけるテレビ本放送が開始された1962年から2005年の間のニュース画面変遷を五つの時期に分け、それぞれを(1)「三台」初期(1962-1986)、(2)「三台」変化期(1986-1993)、(3)CATV 初期(1993-1998)、(4)「三台」衝撃期(1998-2003)、(5)画面カラフル期(2003-2005)とした。ここではCATV 出現後の(3)～(5)を抜粋して紹介する。

(3)CATV 初期で、1993年のSNG(衛星通信システム)導入によって現場中継が可能となり、スタジオと中継先の2画面を同時に映すというような「分割画面」が使われ、さらに、ニュースティッカーもこの時期に使用され始めた、といった特徴がある。(4)「三台」衝撃期に入ると、CATVがSNGと分割画面を取り入れたことで、視聴率において、市場を占めていた地上波「三台」を越えて勝利を収めた。それによって勢いに乗ったCATVは、画面デザインの変革を起こし、911テロ事件後のCNNを模倣してニュースティッカーの多用と多重画面を導入し始めた。(5)画面カラフル期では、CATVの一つである中天テレビのニュース番組が2003年のイラク戦争期間中に、キャスターの特殊な衣装(軍服や迷彩柄のコスプレ)や手書きのホワイトボードなど新しい試みを取り入れることによって画面要素をアレンジした結果、視聴率が1位となった。その後、各局がそれを真似し、テレビ局間の競争がより激しくなったという。

以上からわかる通り、今までの台湾とアメリカのニュース画面は似たような変遷パターンを経ており、どちらも同じく「競争」というキーワードと繋がっている。視聴率の取れている他局の画面レイアウトを真似し、各局の画面が同じような見た目になり新鮮さがなくなると誰かが変化を起こし、それが好評ならまた各局が模倣し始める、という循環を繰り返すのだ。ただ、台湾はそのような地上波テレビ局とCATV局の激しい競争を重ねた結果、アメリカのニュース画面の特徴を残しつつも、差別化を図るために独自の変革を起こし、結果的に画面上の情報が非常に多いニュース画面になっているのではないかと筆者は推測する。

3-2 その他の先行研究

本稿と関連する研究として、位(2006)のような画面レイアウトを取り上げた先行研究以外にも、テレビニュースについて多岐にわたる研究が行われている。以下、抜粋して紹介する。テレビニュースにおける内容面について、永島・服部・坂井(2004)は世界の主要なテレビ局がイラク戦争をどう伝えたかを比較分析した結果、各番組ともにニュース項目の8割前後が実写映像を用いて報道し、取り上げたのは戦況報道を中心としたテーマだったと述べている。宣(2009)は台湾メディアの現状を述べたうえで、台湾における日本報道は主に政治関連の重大ニュースのみだったのに対し、台湾のCATVが日本の番組を輸入したことによって、サブカルチャーや芸能ニュースに関する報道も増えた、ということを明らかにした。工

学や芸術学など他分野からのアプローチとしての研究について、伊師・松宮(2015)は実験によって、視聴者の視線はL字型画面への切り替わりから20~25秒程度の間にL字領域に向けてから、映像領域とL字領域の両方に視線を移動しながら映像を見ていることがわかったという。鈴木・藤田・川崎(1999)は、アイカメラを用いて実験者がテレビの字幕を一番読み取りやすい画面を検討した結果、緑の背景色に対して文字色は白にするとよいこと、文字数が多い場合は画面下方に二行表示にしたほうがよいことを指摘した。テロップや字幕の研究も今まで多数行われてきた。例えば川端(2006)はテロップを中心に、その使用率や演出類型から見るテレビニュース番組における娯楽化の現状を考察し、2000年代のニュース番組は以前より多種多様なテロップを多用していることを分析した。設楽(2011)は1960~2000年代までのNHKのバラエティ番組に見る文字テロップの変遷を追った結果、文字情報は以前より増加し、番組制作側は文字テロップ装置の進化によって画面の表現内容の選択の幅が広がったと述べている。また、日台両国のテレビにおける外国のテレビからの影響について、日本放送協会編(2001)は、日本のニュース番組はアメリカのものを参考にすることが多いことを、本多(2010)は、台湾はアメリカの商業放送スタイルを参考にし、本放送開始当時は日本に設備や番組制作などの援助を求めたことをそれぞれ明らかにした。

このように、様々な分野の先行研究があるが、ニュース番組の画面レイアウトに関する日台比較はまだ見られない。また、日本放送協会編(2001)と本多(2010)などから、日本のテレビも台湾と同じくアメリカの影響を受けたということがわかったが、なぜ日台間の違いが生まれたのか、なぜ画面が比較的シンプルなままなのか、といった疑問点が残されている。

4 日本におけるテレビニュース画面変遷

台湾のニュース画面変遷については位(2006)が示したが、日本のニュース画面変遷はどうだろうか。放送史など過去の資料の中にも、実際のニュース画面の画像は載っていなかったが、『NHK アーカイブス』¹¹というニュースを含めた過去のテレビ映像が観られるサービスを提供しているサイトが開設されている。公開されているのはNHKの映像のみであるため、まだ検討する余地はあるが、今回、視聴できる本放送開始の1953年から2020年までの991本の映像(それぞれの長さは30秒~4分)をすべて確認し、文字テロップのデザインと配置を中心に、筆者がまとめたニュース画面変遷の大まかな流れを紹介する。

まず、1978年以前はニュース映像のみが流れ、文字テロップは使われなかった。最初のテロップは1979年に出現し(図3)、同年にフォントを変更することもあった(図4)。そこから約20年間大きな変化がなかったが、2000年に最初のカラーテロップが使われ(図5と図6)、2001年には画面上方に38秒間表示された固定タイトルテロップ(図7)や、特殊カラーテロップ(図8)が初めて使われた。2003年に初のCG(図9、デジタルカメラ、DVDレコーダー、薄型テレビの部分がCG)と多重画面(図10)が出現し、2004年から「上にタイトル、下に説明テロップ」という画面レイアウトが定着しはじめ(図11と図

12)、そこから徐々に色・フォント・文字サイズを変えていき、現在の画面レイアウト（後出する図 15 がその例）に至った。



図 3 1979「グラマン航空機疑惑」



図 4 1979「人気者に突然の死 さようならランラン」



図 5 2000「三宅島・有珠山噴火で住民避難」



図 6 2000「雪印乳業食中毒事件」



図 7 2001「小泉内閣 発足」



図 8 2001「野依良治教授にノーベル化学賞」



図 9 2003「デジタル家電時代」



図 10 2003「デジタル家電時代」 (その 2)



図 11 2004「台風 23 号 全国で被害」 図 12 2004「二大政党体制と郵政民営化への流れ」

5 台湾と日本のニュース画面比較

5-1 日本と台湾における各放送局のニュース画面の例（抜粋）

では、本稿のテーマである台湾と日本の画面レイアウトには具体的にどのような特徴があり、どの点において異なるのかを比較したいが、ここで一つ問題点が生じる。2-1 で述べたように、台湾は CATV を中心とした 24 時間ニュース専門チャンネルが多く、その全てがニュースのみを報道している番組であるのに対し、現在日本では純粋にニュースを伝える番組（日本テレビ『NNN ストレイトニュース』のような 15 分番組など）が少なく、ほとんどが情報番組の一部に含まれ、ニュース番組と情報番組の境目も曖昧になっている。そのため、比較条件を揃えるよう、台湾と日本のニュース画面をできるだけ多く集めて検証したい。台湾側と日本側それぞれの時間帯の画面を比べ、それほど大差がなければ、それはすなわちどの番組を取っても比較できるということになり、今後比較する番組を決めることができる。

今回、台湾のニュース番組の報道形式に合わせるため、日本側は NHK と民放 5 局における全国放送の番組の中から「アナウンサーが一人でニュースを伝える」場面を取り上げ、台湾側は地上波「五台」と CATV の中の大手 24 時間ニュース専門チャンネル 2 局（TVBS テレビと東森テレビ）の計 7 局のニュース画面を対象に取り扱う。両者が比較できるように条件をそろえるため、切り取る画像は全て「アナウンサーによるニュース紹介」とその後の「実際のニュース映像」の 2 場面である。なお、最新の傾向がわかるように、使用するニュースは全て 2021 年のものであり、日本側は平日の全情報・ニュース番組、台湾側は平日朝・昼・晩の三つの時間帯のニュース番組から画像を集めた。また、紙幅の都合上、今回は日本と台湾それぞれのニュース画面の例を 3 番組ずつ抜粋し、図 13～図 18 にまとめた。それぞれの番組名と放送日時について、図 13 は 7 月 19 日放送の日本テレビ『スッキリ』、図 14 は 8 月 2 日放送のテレビ東京『WBS』、図 15 は 7 月 19 日放送の NHK『ニュースウォッチ 9』、図 16 は 8 月 6 日放送の民視『民視七點晨間新聞』、図 17 は 6 月 18 日放送の中視『中視午間新聞』、図 18 は 9 月 9 日放送の TVBS『晩間 6.7 點新聞』である。台湾のニュース番組である図 16～図 18 に関して、筆者が画面上の情報に番号を付け、表 1 に日本語訳の補足説明をしている。詳細の局名、番組名及び放送時間帯は以下の通りである。

台湾テレビ（台視）：

7:00-8:00 早安您好台視新聞
11:58-13:00 午安您好台視新聞
18:58-20:00 台視晚間新聞

中国テレビ（中視）：

7:00-8:00 中視早安新聞
11:58-13:00 中視午間新聞
18:58-20:00 中視新聞全球報導

中華テレビ（華視）：

7:00-8:00 華視晨間新聞
11:58-13:00 華視午間新聞
18:58-20:00 華視晚間新聞

民間全民テレビ（民視）：

7:00-8:00 民視七點晨間新聞
12:00-13:10 民視午間新聞
17:45-19:55 民視晚間新聞

公共テレビ（公視）：

7:00-7:54 公視早安新聞
12:00-12:55 公視中晝新聞
19:00-20:00 公視晚間新聞

TVBS テレビ（TVBS）：

6:00-9:00 早安台灣
12:00-14:00 午間 12.13 新聞
18:00-20:00 晚間 6.7 點新聞

東森テレビ（東森）：

6:00-9:00 Hello 台灣
10:00-15:00 東森午安新聞
16:00-20:00 東森晚間新聞

フジテレビ：

5:25-8:00 めざましテレビ
8:00-9:50 めざまし 8
11:30-11:55 FNN Live News days
11:55-14:45 バイキング MORE
23:40-24:40 FNN Live News α

テレビ朝日：

8:00-9:55 羽鳥慎一モーニングショー
21:54-23:10 報道ステーション

TBS テレビ：

8:00-9:55 ラヴィット！
10:25-13:55 ひるおび！
13:55-15:49 ゴゴスマ
15:49-19:00 N スタ

テレビ東京：

11:13-11:35 昼サテ
22:00-22:58 WBS

日本テレビ：

5:50-8:00 ZIP!
8:00-10:25 スッキリ
11:30-11:45 NNN ストレイトニュース
13:55-15:50 ミヤネ屋
11:30-00:40 news zero

NHK：

5:00-8:00 NHK ニュースおはよう日本
19:00-19:30 NHK ニュース 7
21:00-22:00 ニュースウオッチ 9



図 13 日本各放送局のニュース画面の例（日本テレビ）



<<図 16 の訳>> ①バドミントン選手凱旋 「皇帝級」隔離食事を公開 ②【政治焦点】立法委員である江啓臣の指導力を疑い 国民党主席朱立倫：自分が選ばれたら 2022 年の選挙で直轄市「六都」において過半数票を必ず取得 ③...地区は依然として大雨または豪雨... ④帰国隔離のはずが「餌あげ」に バドミントン選手李洋：太ってしまう！ ⑤【財経焦点】値上げ！財務省主計局：7 月消費者物価指数が 1.95%アップ ⑥...大気循環の影響を受け、短時間... ⑦【感染状況】台湾は収束 シンガポール：入国者が陰性なら隔離不要 ⑧屏東県 豪雨警報
<<図 17 の訳>> ①新北市の高齢者が県またぎでワクチン 台北市：県またぎは推奨しない ②【防疫作戦】対策本部呼びかけ 情報はまず真偽を調査 無断転載は違法 ③科学教育館ワクチン予約枠 200 余る 原因は家族が「事故」を心配 ④【一緒に戦おう】医療体制を守る IT 会社群能が大千病院に検査ブースを贈呈 ⑤【最新】ワクチンで 29 人急死 陳時中保健相：危険信号発見されず ⑥高温警報 台東 36.0 度 現在気温 日月潭 24.5 度
<<図 18 の訳>> ①③「心筋炎」疑惑？保護者反応極端 BNT ワクチン副作用を心配 ②【脱税すると車を差し押さえ】脱税しないで！「ETC と自動車ナンバー税」を 1 年未納で強制撤去に ④【警戒維持】桃園市の感染状況は制御可能！「暫くレベル 3 にせず」中秋は依然交通制限 ⑤独占ニュース

表 1 図 16～図 18 の日本語訳

今回は日本と台湾それぞれのニュース画面の例を 3 番組ずつ抜粋したが、各テレビ局の特徴が多少あるものの、今回載せられなかった画像も含め、時間帯による画面の構成や文字情報の配置における基本形は固定されていると考えられるため、番組の種類などの条件を揃えば、どの番組を選んでも比較することは可能であろう。

5-2 ニュース画面の比較

筆者の見解として、図 13～図 18 から見られる日本と台湾のニュース画面における最大の差異は、「一度に取り上げるニュースの数」である。日本は一度に一つのニュースしか取り上げないのに対し、台湾は画面左端で下から上へと動くニュースティッカーや、画面右端と

下部で定期的に入れ替わる見出しによって別ニュースの情報や速報を表示する手法を使用することで、複数のニュースを同時に流している。

以上を踏まえ、この節では同じく朝の時間帯のニュース番組として、図13（日本）と図16（台湾）の画面情報を詳しく比較したい。テレビ画面における情報について、本郷(2009)によると、文字や簡単な記号・図形で表示される情報は多岐にわたるが、これらは「①放送に関する情報」「②音声字幕」「③解説情報」「④付加価値情報」「⑤情報の覆い隠し」の5つのタイプに分類することができる。「①放送に関する情報」には、チャンネル番号、放送局、番組名、コーナー名、タイトル、映像の種類（「生放送」、「録画」などの表示）、放送の種類（「字幕放送」、「同時通訳」などの表示）などが含まれ、中には常に画面に表示され続けるものもある。「②音声字幕」¹²とは、流れる音声への聞き取り理解を助けるために、画面に流れる文字情報のことを指しており、外国人のインタビューや外国語の発言を日本語に訳した字幕がこれにあたる。「③解説情報」は、映像や音声で提示されている内容に付け加える説明のことであり、出演者などの名前・肩書き・年齢・国籍や、用語の解説、内容の要点・キーポイントなど、表現方法が最も多様な文字情報となる。「④付加価値情報」とは、視聴者の生活にとって便利な情報や広い視聴者層の関心がある情報のことであり、時刻、天気情報、占い情報、速報など、番組内容から独立した追加的な情報である。最後の「⑤情報の覆い隠し」は、情報の提供とは反対に、表示してはいけない情報に対して画像を重ねるものであり、人権やプライバシーの尊重の観点から、人の顔、表札、車のナンバープレートなどをモザイクを使って隠す手法である。なお、台湾のニュース画面に頻繁に出現する「ニュースティッカー」については、本郷(2009)では言及されていないが、元々は速報や緊急ニュースを伝える手法として使われていたため、筆者はこれを「④付加価値情報」の中に分類するとした。

以下から、図13と図16における画面情報を、上記の5つのタイプに分類し、当てはまる番号（①～⑤）を各項目の後ろに付け加える。まず図13の一つ目の画面には、左上に『スッキリ』という番組名（①）、時刻（④）、天気情報（④）、右上に「LIVE 報道フロア」と生放送という映像の種類を示す情報（①）、中央下にニュースタイトル（①）が表示されている。次に二つ目の画面には、左上に同じく番組名（①）、時刻（④）、天気情報（④）、右上にニュースのキャプション（見出し）（①）、中央下に「優先レーン」に対する解説情報③がある。一方、図16の一つ目の画面には、右上に「民視電視台」というテレビ局名（①）と「HD（＝高解像度の映像）」という放送の種類を示す情報（①）、左にニュースティッカー（④）、左下に日付（④）、時刻（④）、天気情報（④）、中央下にニュースタイトル（①）とニュースティッカー（④）がある。そして二つ目の画面には、右上に同じくテレビ局名（①）と放送の種類を示す情報（①）、左に一つ目の画面の内容に続くニュースティッカー（④）、右にコロナ感染状況を表すニュースティッカー（④）と気象警報（④）、左下に同じく日付（④）、時刻（④）、天気情報（④）、中央下にバ

トミントン選手の名前と隔離中の食事に対する補足説明 (③) とニュースティッカー (④) がある。図 13 と図 16 それぞれの画面のどの位置にどのような情報があり、それらをどのタイプに分類したかを以下の表 2 にまとめた。

	一つ目の画面にある情報	二つ目の画面にある情報
日本 (図 13)	左上: 番組名①、時刻④、天気④ 右上: 映像の種類① 中央下: ニュースタイトル①	左上: 番組名①、時刻④、天気④ 右上: キャプション① 中央下: 解説③
台湾 (図 16)	右上: テレビ局名① 放送の種類① 左: ニュースティッカー④ 左下: 日付④、時刻④、天気④ 中央下: ニュースタイトル① ニュースティッカー④	右上: テレビ局名① 放送の種類① 左: ニュースティッカー④ 右: ニュースティッカー④ 気象警報④ 左下: 日付④、時刻④、天気④ 中央下: 解説③ ニュースティッカー④

表 2 図 13 と図 16 の画面にある情報とその分類

日本 (図 13) と台湾 (図 16) の共通点として、すべて画面の中央部分にアナウンサーの顔とニュース映像が流れ、その周りに文字情報などを配置していることが挙げられる。また、図 13 の一つ目の画面に映されているアナウンサーの後ろのセットには、「NNN 日テレ」というものが右上に見られる。テレビ局名を文字情報としてではなく、アナウンサーとともに映像を映し出す手法について、制作側が意図的に字幕以外で表示する狙いがあったのか、興味深いケースである。その他に、日本側は時刻と天気、台湾側は日付、時刻と天気に関する情報を一箇所に集中させていることも共通点の一つである。これは、本郷(2009)でも言及されている「情報のグループ化」として捉えられることができる。つまり、類似的な用途や性質を持ったいくつかの情報をまとめて表示するという手法である。図 13 と図 16 はともに朝の番組であるため、忙しい朝の時間帯を考慮し、テレビを時計代わりにできるように時刻を表示させ、出勤前に知りたいであろう天気情報を時刻と「グループ化」することによって、求められる情報を一箇所に集中し、視聴者にも見やすくするという目的があると考えられるだろう。

その一方、相違点として、「台湾側の付加価値情報の多さ」がまず挙げられる。表 2 でまとめたように、図 16 の中に含まれる「④付加価値情報」は 12 項目であるのに対し、図 13 には 4 項目しかない。一例ではあるが、台湾のニュース画面における情報の多さ、そして日本のニュース画面との大きな違いはここからも垣間見ることができる。また、「文字の色の

変化」も相違点の一つとして列挙できる。日本側は図13のニュースタイトルとキャプションでわかる通り、「五輪」「大規模交通規制」「専用・優先レーン」「運用」「進路を譲らなければならない」において、ニュースのキーワードや要点となる文字の色を青、赤、薄青に変更している。それに対し、図16の台湾側は、左・右・下ともに一つのニュースタイトル・ニュースティッカーの中では色を変えていない。この違いについて、日本は一度に一つのニュースしか報道しないという前提のもと、どこがそのニュースのポイントなのかを色でわかりやすくハイライトし、視聴者を一つのニュースにのみ集中させながら、その特定のニュースに対する理解を深めさせたい、という制作側の意図があると考えられる。反対に台湾側は、ただでさえ付加価値情報が多く、視聴者は自らによる情報の取捨選択を強いられる中、各ニュースタイトル・ニュースティッカーの中の色を変更すれば、画面の複雑さがさらに増し、よりわかりにくいニュース画面になる恐れがあるだろう。

6 おわりに

本稿は、台湾と日本のテレビニュース番組における画面レイアウトの差異を解明するため、テレビ放送史や先行研究を参考にしながら、両者のニュース画面変遷を明らかにし、実際のニュース画面の比較を試みた。その結果、先行研究から、台湾のニュース画面はアメリカのデザインを踏襲しているものの、地上波とCATVを含めたテレビ局間の激しい競争を繰り返しながら独自の変化を遂げたことで、多くの情報が同時に画面に表示される傾向があるということが推測できた。また、朝の時間帯のニュース画面において、日台ともに画面の中央部分にアナウンサーの顔とニュース映像を流し、その周辺を文字情報などで囲むという配置となっていることや、時刻や天気情報などの類似した機能がある情報は一箇所に集中していることが、両者の共通点だと捉えた。反対に相違点は、「台湾側の付加価値情報の多さ」や「文字の色の変化」が挙げられ、特に後者に関して、日本側は視聴者に一つのニュースについて深く理解してほしいという目的があるのに対し、台湾側は画面情報の多さを考慮し、それぞれの形での「わかりやすさ」を意識しながら文字情報の色を変更するか否かを判断しているのではないかと筆者は考えた。

しかし、「台湾側は付加価値情報が多い」ということの背景にはどのような理由があるのか。また、3-2で述べたように、日本もニュース番組の制作や放送形式において、台湾と同様にアメリカを参考にしていたのにもかかわらず、なぜ台湾との違いが生まれ、ニュース画面が比較的シンプルなままなのか。これらの点に関してはまだ未解明であるため、今後の課題にしたいが、後者について現時点で推測できる理由は三つある。一つ目は、日本のテレビ局は「ニュース画面」ひいては「ニュース番組」以外のところで競争している、という点である。台湾もアメリカも「テレビ局間の競争」がキーワードとなり、画面レイアウトの変化に拍車をかけたが、日本もテレビ局間の競争がないとは想像し難い。だとすれば、川端(2006)のような先行研究でも指摘されている「ニュース番組の娯楽化」という、番組の形式

にこだわりながらもエンターテインメント要素をニュース・情報番組に入れ、視聴者の目を引くことで競争している可能性や、根本的に日本のテレビ局はバラエティーやドラマなどニュース以外の番組に重きを置いて競争している可能性が考えられる。例えば、他ジャンルの番組と比べ、各局のニュース番組の間に競争が生まれていない場合、画面レイアウトに凝る必要がなく、独自の変革を起こす必要もなくなると筆者は考える。二つ目は、災害報道に力を入れているから、という点である。特に公共放送であるNHKに見られる傾向だが、日本のテレビは災害報道に尽力している印象があるため、「見やすさ」を意識した災害時のニュース画面作りが、結果的に平常時の画面にも影響を与え、シンプルなままになっている、ということも考えられる。最後の三つ目は二つ目と関連しているが、画面の表示内容が法律で定められている、という点である。日本では「報道倫理」「テレビ局の活動指針」などの公的な規定により、ニュース番組の画面における配置や情報量に対する制限など、守らなければならないルールが存在している可能性があり、画面情報を増やさないのでなく、増やすことが「できない」という可能性も考えられるため、これについては検討が必要であろう。

このように、日台ニュース画面の差異が生まれた理由を、今後は民族性や社会規定などのようなより文化的な内面の部分について調べていきたい。また、第4章で日本のニュース画面変遷を大まかにまとめたが、NHK以外の資料も集め、より正確なものを作成しながら、画面の変遷がどのような歴史事件と結びついているのか、単なる技術の進歩からなるものかを明らかにしたい。

参考文献

- 伊師華江・松宮一道(2015)「テレビ映像中の L 字型画面に対する視線停留の分析」『仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要』51、仙台高等専門学校名取キャンパス、pp.11-17
- 伊予田康弘ら編(1998)『テレビ史ハンドブック：読むテレビあるいはデータで読むテレビの歴史 改訂増補版』自由国民社
- 株式会社東京放送編(2002)『TBS50 年史』株式会社東京放送
- 川端美樹(2006)「テレビニュース番組における形式的娯楽化の現状とその問題：字幕・テロップを中心として」『目白大学総合科学研究』2、目白大学、pp.209-219
- 設楽馨(2011)「NHK バラエティ番組に見る文字テロップの変遷—テレビにおける表記実態と機能の分化—」『武庫川女子大学紀要（人文・社会科学編）』59、武庫川女子大学、pp.1-9
- 鈴木喜久・藤田晃・川崎雅人(1999)「TV 画面における字幕情報について」『東京工芸大学芸術学部紀要』5、東京工芸大学芸術学部、pp.67-71
- 宣聖芳(2009)「台湾メディアにおける日本報道」『ソフィア：西洋文化ならびに東洋文化交

- 流の研究』57(4)、上智大学、pp.96-105
- 永島啓一・服部弘・坂井律子(2004)「世界のテレビはイラク戦争をどう伝えたかーイラク戦争テレビ報道国際比較調査研究ー」『NHK 放送文化研究所年報』48、日本放送出版協会、pp.7-70
- 日本放送協会(2001)『20世紀放送史 上』日本放送出版協会
- 日本放送協会(2001)『20世紀放送史 下』日本放送出版協会
- 本郷好和(2009)「テレビ映像の画面文字情報に見るテレビメディアの役割の変化」『日本研究のフロンティア 2009』、国際基督教大学日本研究プログラム、pp.79-95
- 読売新聞芸能部(1994)『テレビ番組の40年』日本放送出版協会
- 位明宇(2006)「台湾電視新聞鏡面設計改變之研究 1962-2005」国立政治大學傳播研究所碩士論文(「台湾のテレビニュース画面デザインの変遷 1962-2005」国立政治大学マスコミュニケーション研究科修士論文(未公刊))
- 何貽謨(2002)『台灣電視風雲錄』台灣商務(『台湾のテレビ物語』台灣商務印書館)
- 鄭瑞城他(1993)『解構廣電媒體：建立廣電新秩序』澄社(『電子メディアを解剖：新しい電子メディアの秩序を作る』Taipei Society 出版)

注

- ¹ 伊師華江・松宮一道(2016)「L字型画面が映像鑑賞に及ぼす影響ー視聴者に配慮したテレビの速報表示画面デザインへ向けた検討ー」『日本感性工学会論文誌』15(7)、日本感性工学会、pp.687-691
- ² 山田賢一(2007)「公共放送拡大に向かう台湾ー「過当競争」改善への期待と課題ー」『放送研究と調査』57(6)、NHK 放送文化研究所、pp.38-53
- ³ 行政院國家通訊傳播委員會「2018年11月：衛星電視家数、頻道數統計」(参照：2021年8月16日)
<https://data.gov.tw/dataset/24180>
- ⁴ 普及率は住民基本台帳世帯数から算出
- ⁵ NHK 放送文化研究所編(2006)『NHK データブック 世界の放送 2006』日本放送出版協会
- ⁶ 服部孝章編(1997)『放送 テレビは21世紀の間メディアたりえるか』大月書店
- ⁷ 総務省(2021)「令和3年版 情報通信白書」(参照：2021年10月6日)
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd241810.html>
- ⁸ 総務省(2011)「地上デジタルテレビ放送に関する 浸透度調査」(参照：2021年10月6日)
https://www.soumu.go.jp/main_content/000106190.pdf
- ⁹ 総務省情報流通行政局衛星・地域放送課(2021)「衛星放送の現状(令和3年第2四半期版)」(参照：2021年8月22日) https://www.soumu.go.jp/main_content/000730686.pdf
- ¹⁰ 総務省情報流通行政局地域放送推進室(2020)「ケーブルテレビの現状(令和2年8月版)」(参照：2021年8月22日) https://www.soumu.go.jp/main_content/000504511.pdf
- ¹¹ NHK アーカイブス(参照：2021年8月15日) <https://www.nhk.or.jp/archives/>
- ¹² 本郷(2009)では、通常のテレビ方法で画面に出てくる文字情報のみを対象にしているため、リモコンの操作によって呼び出せる視聴覚障害者向けの字幕は対象外